

令和7年度自己点検・評価報告書（中間時）に対する評価・意見 について

令和8年3月 神奈川県秦野市

評価・意見に先立ちまして、上智大学短期大学部におかれましては、日頃より「コミュニティフレンド」や「イングリッシュフレンド」など、教育分野における様々な活動に御尽力いただいていることに加え、施設の相互利用など、幅広く地域に貢献していただいておりますことに、深く感謝申し上げます。

1 「基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果」に対する評価・意見

(1) アセスメントポリシーの改定について

授業改善、学習成果、教育成果などを幅広く対象としていた複数のアセスメントポリシーについて、学習成果に重点を置いたポリシーへと改定したことは、評価の視点を明確化し、より実効性の高い評価体制の構築につながる取組として評価します。

あわせて、従来から課題となっていた評価担当教員の偏りの解消や、評価に携わる教員の多様化にも資するものであり、評価の公平性及び客観性の向上につながるものと考えます。

2 「基準Ⅱ 教育課程と学習支援」に対する評価・意見

(1) 卒業生アンケートについて

令和3年度に実施されたアンケート結果に基づき、令和4年度から「ライフラインチャート」を活用した学習を導入したことは評価できます。

一方で、この取組によって学生にどのような変化が生じたのかなどについて検証を行い、その結果を取組の改善につなげていくことも重要であると考えます。

(2) 学習進度の差への対応について

学習アドバイザー体制の強化や補修科目の開講など、学習進度の差への対応として実施されている様々な学生支援については、一人ひとりの状況やニーズに応じたきめ細やかな支援体制を構築し、学生の学習の定着につなげることで、円滑な卒業を後押しする取組となっているものと評価します。

一方で、取組による効果や学生、大学に対する影響などを検証し、その結果を取組の改善につなげていくことも重要であると考えます。

3 全般に対する評価・意見

報告書にも記載されているとおり、令和7年度以降の学生募集を停止していることから、令和2年度の自己点検・評価時とは異なる対応が必要となる部分も多い中、課題の解決に向けて、優先順位を付けて対応されているものと思います。

最後の一人に至るまで、学生が無事に卒業できるよう、引き続き、着実な取組を進められることを期待します。